

大正六年二月一日發行

婦人と子ども

第十七卷  
第二號

フレイベル會

第十七卷第二號目次

保姆その人.....

何を以て導かんとするや.....

紀元節と幼稚園.....

豊城白明  
東洋東幼  
海幼幼幼  
幼稚園園園

節分の話..... 村尾節三

七不思議..... みなと

保育の教材と方法に關する

テエー教授の意見..... 紹介子

吾々は幼兒を尊重する人でなければな

らぬ.....

色彩の心理..... 菅原教造

本誌定價

一册 郵税共金拾參錢 六册前金郵税共七拾貳錢  
拾二册同金壹圓四拾四錢 郵券代用 一割増

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に送本致します。(振替口座東京一七二六六番)

本會宛御用務

本會宛諸般の御用務は左の如く願ひます  
庶務及會計に關する御用務は東京女子高等師範學校附屬幼稚園内フレイベル會事務所宛  
本誌編輯の御用務(寄稿、廣告等)は東京府下代々木山谷二四倉橋惣三宛

大正六年二月一日印刷納本  
大正六年二月一日發行

編輯兼發行者 倉橋惣三  
東京府豊多摩郡代々幡村大字代々木山谷二四

印刷者 岡守功  
東京市本所區番場町四番地

印刷所 凸版印刷株式會社本所分工場  
東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

發行所 フレイベル會

# 二月常會

二月十日(第二土曜日)午後一時半より

東京女子高等師範學校附屬幼稚園にて

一、講演

北米合衆國に於ける幼稚園の現状と其の理想

文學士  
ドクトル

久保良英君

久しく北米に遊學して新たに歸朝せられたる久保學士が彼の地に於て親しく見聞せられたる幼稚園の現状及びブロー、テニウイー、ホール等諸學者の幼稚園教育に關する意見、教育實際家の現状に對する批評、尙ほ又米國に輸入せられたるモンテッソーリ式幼稚園の問題に就て最有益なる紹介ある筈。多數諸君の來聽を望む。

二月

フレールベル會

顧問 高島平三郎先生

# モドコ

## 本誌の四大特色

子供繪雑誌は玩具であると同時に教科書であります。お子様方がコドモを御覧になつてゐる間に物事を覚えお行儀がよくなること不思議な位です。

まじめで教育的なこと  
繪が叮嚀で美麗なこと  
お話が易しく面白いこと  
片假名のみで讀易いこと

□ 定價一冊十二錢  
□ 郵 税 五 厘  
□ 六冊郵税共六十九錢  
□ 十二冊一圓三十一錢  
□ 郵税共  
□ 總て前金の事  
合本定價

各集郵税共五十錢

東京市小石川區  
林町五十七

### コドモ社

電話番町六一八  
振替東京二七九六三

合本出來

大正三年七月號より  
同 二年十二月號まで  
大正四年三月號より  
同 三年七月號まで  
大正四年六月號より  
同 三年十二月號まで  
大正四年七月號より  
同 三年十二月號まで  
大正五年五月號より  
同 四年十一月號まで  
大正五年六月號より  
同 四年十二月號まで

# 婦人と子ども

## 保母その人

大正六年二月一日  
第十七卷第二號

教育は綜合作用である。幼稚園教育も亦極めて複雑なる諸方面の作用の協同合致によつて、始めてよく其の効果をあらはし得べきものである。吾人は時に其の一面を擧げ、一作用を捕へて、其の大切なるを説く。或は制度に重きを置いて論ずることもある。或は學理の研究の要を説くに専らなることもある。特に幼稚園教育に於て、設備の貴重なる所以を極論することもある。幼兒等自身の相互作用の如何に教育的價値に富むかを見て、頗る之れを尊重するの論をなすこともある。其の他曰く何、曰く何、苟も幼稚園教育の問題として數へらるべきもの、其の大小を問はず、いづれも皆、幼稚園教育をして其の完き効果を實現せしむ

るに缺くべからざるものである。その最も小なる如く見ゆる事項と雖も、之れを忽せにして可なるものはない。又其の一つ／＼を如何に尊重し、將た過重するも亦、恐らく其の必要を認むるに於て過ぐることはないであらう。

しかし、之等の綜合作用の中にあつて、最も基本的喫子の要約的作用をなすものは——之れあるが故に、他の諸作用が始めて教育的に生きて來るものは——之れ無ければ、他の諸作用のすべてが、教育的に死するものは——更めていふ迄もなく、保母その人である。保母その人、實に實に保母その人に、幼稚園教育の究極の解決がある。此の意味に於て、教育は綜合作用である前に、それより

も尙基本的意義に於て人の作用である。

人の作用であれば、その人以上のことは出来ない。他の多くの作用は、此の『人の作用を一ぱい發揮せしめ、完成せしむべく、參加するものに過ぎない。人を外にして、其の他の條件で教育を完うしてゆこうとするのは、射手のない弓で鳥を射んとし、弾き手なしの琴から、音楽を聴こうとするよりも無理なことである。なくてならぬものは人である。保姆その人である。

幼稚園の教育に於ては幼児を尊重するといふ。

しかも此のことは、たゞに幼児に自由を許すといふだけでは出来ない。保姆その人が自由の人でなければならぬ。而して自由の人とは、自由主義の理解者といふだけではない。又、自由を愛する人といふだけではない。彼みづから自由（人格の）を有しないで、知識的に自由を理解し得る人もある。或は又、彼みづからの性情の反動として、自由を憧憬し又之れを愛好する場合もある。そう

いふ人は自分で自由を與へる積りでも、幼児は決して眞の自由を與へられない。却つて、その人の有せる不自由或は假りの自由を受け取る。人に眞に自由を與へ得る人は彼みづからが、自由を持つ人でなければならぬ。

幼稚園教育は個性を尊重しなければならぬといふ。しかも、個性尊重は、個性の心理學的理解ではない。また、個性の放任でもない。個性尊重は尊重であつて、他人の個性を尊重し得るものは、彼みづからが、先づ、自分の個性を尊重し得て居るものでなければならぬ。少くも、自己の個性の充分なる意識を持つものでなければならぬ。殊に、教育に於ける個性尊重は、たゞあるがまゝの個性を、それ自身として承認するだけではなくして、之れを一層向上せしめ、發展せしめんとする意志を含むものである。而して、此の意志は、自ら已れの個性を向上せしめ、發展せしめんとする努力を有することなき者に、決して生じ得べき

ものではない。人の個性を尊重し教育し得るものは、みづから自分の個性を尊重し教育するものでなくてはならない。

幼稚園教育に於ては、幼児に美の趣味を興ふべしとか、知性の正確さを興ふべしとかいふ。しかも、保母その人にして、美の深き趣味なく、知性の正確なくして、何の處よりか、此の教育が可能にならう。之れ等は一例である。吾人は斯くの如く考へ來つて、幼稚園の教育効果の一切を舉げて——少くも其の責任の一切を舉げて保母その人に歸せざるを得ざるに至る。必ずしも極端の言ではないと信ずる。

但し、斯くの如き言をなすを以て、保母諸君を責むるに急なるもの、苛酷なるものと誤解せられてはならない。吾人は、幼稚園教育の困難さに就て、その實情を最よく知悉せるものとして、寧ろ諸君の事業と苦心とに無限の諒察を惜まないものである。しかも、吾人が今日此の論をなすものは、

幼稚園の教育効力の最中心點を明かにせんとせるに他ならない。而して、敢て言ひ得ることは、すべての幼稚園は、その保母が、銘々に、如何に常に此の中心點を凝視せるかによつて、其の教育的價値が定めらるゝといふことである。

ところで、此の評價は、設備の評價や、方法の評價と違つて、外からはよく分らないことである。又假りに分るものであつた處で、かくの如き處まで深入りして批判することは其の人の前でも——況んや其の人以外の人の前でも——餘りに無禮なことになる。故に、此の批判は、自分みづがら以外、何人も觸れては呉れないであらう。かくて、保母その人といふ問題は、どこ迄行つても、保母自身の問題である。あなたの問題を當然あなたに擔はせる。これが、あなたの幼稚園を、我國の幼稚園を、意義あらしむる第一の出發點である。

あゝ何たる平凡な、そして言ふべく苦しい言葉であらう。

## 何を以て導かんとするや

貴重なる幼児は諸君に托せられて居る。其の幼児を身にかへ難く愛重して居る親達は、諸君に對する全幅の信頼を以て其の子を携へ來り託したのである。國家は其の幼児の教育者として、諸君を承認し、又諸君に期待して居るのである。而して、

幼児は其の全精神を諸君の前に傾倒して、其の教導に従はふとして居る。諸君が充分此重任を自覺し、日々其の全力を致しつゝあるは何人も疑はない。それはよく、諸君が保育に熱心なるによつて證明せられて居る。諸君口を開けば保育法の困難なるを云ふ。困難を感じるは、熱心なるの結果である。諸君は機會を得る毎に保育法の研究を怠らない。研究につとむるは熱心なるの結果である。又、保育法研究の爲に、進んで種々なる基礎知識の研鑽にまで及ぶ。益々其の熱心なる所以である。しかし、諸君は斯くの如く研究せられ、熱

達せられたる方法のみを以ては、幼児を導くことは出来ない。何故に導かざるべからざるかは明かである。如何なる方法によつて導くべきかも明かである。然らば果して何を以て導かんとするや。之れは屢々殘されて居る問題である。

○

導くべき目標——それが自己の微力にて到底導き到り達し得ないことが多いとするも、兎に角く、目標だけは立つて居なければならぬ。而して教育の目標は、教育の各時期に従つて、程度にも亦性質にも各相違あるものではあるけれども、其の一つ／＼の一里塚を辿りつくして到達せんとする竟極の目標は、すなはち人生の目的それ自身でなければならぬ。而して、之れあるによつて各目標の方向も定められるのである。以て見れば、我等が幼児を導かんとする方向は、——幼児教育の



範圍内では何れの點まで進み得るにせよ。——恐らく極めて少し許りしか進み得ないにせよ。——いふまでもなく、人生の目的それ自身によつて指定せられなければならない。

○ 若し我々が人生の目的を、既に完全に捕へ得て居るならば、それによつて確に幼児を導くことが出来る。恐らくや之れが理想の教育者といふものであらう。しかし、之れは凡ての人に望むべく餘り六かしいことである。又若し、此の條件に合しなれば幼児教育者たり得ないとならば、果して幾人か其の任に留まるに値しやう。そこで我々は、もう一段低い處で寛恕せられなければならない。それは何であるか。我々自身が既に身に捕へ體現し得ては居ないが、之れを明かに理解し、眞實切實にこれを自己の目標として居るものを有して居ることである。換言すれば、自分も今現に其の目標の方へ自らを導きつゝある身ではあるが、兎に角、其の目標だけは分つて居ることである。蓋し之れは、教育者として寛恕され得る最極限であら

う。即ち、之れだけのことのない者は、教育者とはいはれないのであらう。自分にも分らない方向に、他を導いてゆくことは到底出来ないからである。

○ 我等は我が有せる此の方向を以て——せめては此の方向だけを以てなり、幼児を導きてゆくの外はない。而して我等、果して如何によく此の方向を意識し、眞によく方向として居るか。換言すれば、如何に眞實に我が方向として確に有して居るか。保育法の研究は益々進まなければならぬ。保育の經驗は益々熟練しなければならぬ。しかも同時に、——寧ろ先きに——以て幼児を導くべきものをわれに有しななければならない。

斯くの如きことは、教育全體の問題で、特に幼児教育に限つた問題では勿論ない。しかも、幼児を相手とする教育なるが故に、軽く考へられたり、閑却せられたりしてよい理由は、何處にも無いのである。而して我國現今の保育界に此の方面の意識の一層強めらるゝ必要あることを思はざるを得ない。

# 紀元節と幼稚園

貴園にては紀元節の式を如何なる風にお舉げになりますか。  
又紀元節と幼児とを如何に結び付けてお考へになりますか。

紀元節が我國三大節の一として、重要な國民的祝祭日であることは今更申すまでもありません。そこで、現在諸幼稚園ではどんな風にして、この日を祝うて居られるのでありませうか。それを各園にお尋ねして、お互の研究の資料にしたいと思ひました。すなはち、茲に掲載しましたのは大要前記の問ひに對して、市内數ヶ所の幼稚園に就き記者が聴取して來たものであります。編輯締切の切迫上、極く少數の幼稚園をお訪したに過ぎませんが、それでも期待に背かない丈けの豊富な好資料を集め得たことを幸福に思ひます。御多忙中を、突然お訪ねしたにも拘はらず、懇切に御會談下さいました各園の園長並びに主任保母の方に厚く御禮を申し上げます。

## 女子大學附屬豊明幼稚園

當園の幼児は紀元節には大學の人達が式をお舉げになります時、一緒にお仲間へ入れて頂きまして一番前の列に並ぶのであります。これはこの女子大學の學園が大學から幼稚園まで一系統を成して居ります爲めに、斯る祝祭日には全學園の人々がすつかり打揃うて、一家族となつて祝し喜ぶといふことになつて居るからであります。これは幼児にもいゝ影響を與へるのであります、一人々

々の幼児は各自大勢の中の一人であることを自識して、幼児相當に嚴肅を感じ、莊嚴を味うて、立派に參列の任を全うするのであります。これは幼稚園だけが別になつて祝ふ場合を想像して見ますに重味のあるといふ點に於て、非常な差異があることであらうと思ひます。三大節の如き國民的祝祭日には努めて端嚴に式を舉げる必要があると思ひます。而して當幼稚園が比較的重味のある式を

舉げることが出来ると思はれましたならば、それは當幼稚園が女子大學に附屬して居るといふ特異の事情に胚胎する所が多いのであらうと思ひます。

當日は幼稚園の幼兒は一番最後に式場に入ります。式は先づ一同の敬禮に始まります。次に君か代を二回合唱、この間に御眞影を開扉いたします。茲で校長が起つて勅語を捧讀いたします。次いで校長、職員、大學生總代、女學校生總代、小學校生總代、幼稚園生總代が順次御眞影に對して最敬禮をいたし、總代を出して居る各段階の生徒も之に倣うて最敬禮をいたすのであります。斯くて御眞影に幕を下ろします。これからしばらく幼稚園生が主となつて式の一部を行ひ、それが濟むと大きい方々より一足先きに式場を出ることになつて居ります。

扱て御眞影の幕が下りますと、校長は幼稚園の幼兒に向つて、極く簡單な話をして下さいます。

この話は問答的に行はれることもありませう。

「今日は何ういふ日ですか、知つて居る者は誰でも言つて御覽なさい」といふ風に話されるのであります。この答が又實に可愛いのであります。一般に校長先生などに向ひますと幼兒は固くなつて了ふのであります。當幼稚園の幼兒は校長先生をお父さんのやうに思つて居りますので、少しも憶面せずにはつきりとお答へするのであります。扱てそれが終りますと唱歌になります。これは附屬の小學校の生徒の作りましたもので「紀元節のうた」といふのであります。「くもにそびゆる」は幼稚園には六ヶ敷過ぎますので、この唱歌を歌つて式を終ることにして居ります。御參考にお目にかけてあげば次のやうなものであります。

#### 紀元節のうた

めでたや今日は紀元節

いはへや今日は大むかし

神武の帝の御位に

卸かせ給ひしその日なり

二千餘年のそのむかし

今日のこの日は我國の

生れし日なり、いざともに

末の榮を祈らなん

これで幼稚生は退場するのであります、この間はせい／＼十五分位でありますが非常に可愛らしくて、當日の式の端嚴なる他の部分に對して適當なコントラストを成して居るのであります。背後に控へてゐらつしやる姉さん達も、この間始終、可愛くて堪らないといふやうな眼差で、幼い人達を見てゐて下さいます。

式場を出ました幼児は一旦幼稚園の方へ戻りまして、お細工で拵へた勳章や國旗を貰つて歸宅するのであります。

以上の如く當日の式は頗る簡單であります、紀元節になるまでに、いろ／＼なことに關聯させて紀元節といふことを幼児の頭腦に込み込ませます。神武天皇のお話をしたり、金鵄勳章の由來を

お話ししたり、國旗を作つたり、弓を作つたりするのであります。去年は「むかし神武のおんみかど、長すねひこをうつときに、ピカ／＼／＼、あやしの光は、天皇のお弓のさきにとまつたり」といふ三番まである「金鵄勳章」といふ唱歌が幼児に大變氣に入りまして大流行でございました、而して金鵄勳章を拵へて胸にさげることも流行いたしました、尤も男兒の多い組と女兒の多い組とは細工物が違ひまして金鵄勳章の代りに弓が流行したりするのであります。總體幼児は表現性に富んで居るものでありますから、すべて理解したところのものは之を外に向つて表現せんとするのであります、そこで紀元節近くなりますと、幼児はお話で聞いたり、歌でうたつたりして、臆氣ながら神武天皇に就て分つて來ますと、直きに神武天皇の御像を拵へやうと致します、紙にも黒板にも描きまします、又粘土でも拵へます、去年などは粘土で大變上手に御像を拵へた幼児がありました。斯の如く

く紀元節に對する準備があらゆる方面から行はれて後、始めてその式の當日が生きて來るのではあるまいかと存じます。殊に幼児の場合に於ては、

言はゞ形式的な式だけを行ふだけでは、紀元節を祝ふ心持を多少たりとも實感として味はさせることは至難であらうと存じます。

## 目 白 幼 稚 園

當園の紀元節の舉式はお茶の水幼稚園のそれに萬事則ることにいたして居ります、尤も當園には未だ御眞影が下附されて居りませんので、それが爲めにお茶の水より多少簡單化されて居るのは止むを得ないことと思ひます、先づ當日は午前十時半頃から式を行ひます。一同が式場に揃ひますと

いて君が代を二回合唱して式が全く終ります、この間が凡そ三十分位ですから十一時までには式が終るのであります。扱て幼児はそれづくにお菓子を買つて歸るのであります。

敬禮をいたします、それから幼児の總代が「紀元節、おめでたうございます」といふ祝詞を申述べます、これを受けるのは園長であります。この祝詞とともに幼児は一同敬禮をするのであります。

それから紀元節の奉祝歌「くもにそびゆる」を唱ひます。これが終ると園長の簡單な訓辭があり、續

紀元節近くなると紀元節の唱歌を教へたり何かする時に神武天皇のお話などが自然出るのは勿論であります、當日は式の始まる前、幼児達に見せる爲めに幼児の控室に神武天皇御東征の圖とか、金鷄勳章の繪とかを掲げて置きます。幼児に神武天皇の御事蹟を深く知らしむるとか、紀元節の由來をはつきりと分らせるとかいふやうなことは無理に行ふ必要がないと思ひます。斯様な智識

的な事柄は小學校以上に於て教へられるべきであらうと思ひます。幼児にはたゞ紀元節と神武天皇とは何か關係がある、紀元節の時には陀度神武天皇の御名が繰返されるといふ程度にまで注意を喚起せしむれば充分であらうと思ひます。要は紀元節に際して紀元節らしい氣分を懐かせる基礎を作るにあると思ひます、それには紀元節に適當な感情を伴はせることが必要であります。この感情を伴はせるといふことが誘導的教育、基礎的教育たる幼稚園教育に忘るべからざる用意であると思ひます。すべての事件、すべての行爲に對して、皆それ〴〵適當な感情を持つやうに幼兒を導いてやらなければいけないと思ひます。孝行といふことも適當な感情が伴つてゐない場合には僞善と同じに見られても仕方がないではありませんか。三大節にはよく小學校でも、幼稚園でも、兒童にお祝ひの菓子を與へますが、これは幼兒に喜びの感情を持たせる手段として甚だ有効であると思ひま

す、それで當園でも三大節及び三月末の保育終了日には菓子を與へることにして居ります。これは子供に取つては非常にうれしいことなのであります。菓子を與へるなどは教育的でないと言つて批難する人もありますが、これはよく子供の心理を知らぬから斯ることを言ふのであります。尤も元日には菓子の代りに男兒には凧、女兒には羽根を與へて居ります、これも元日の氣分を作る爲め、及びこの遊びを益獎勵したい爲めからであります。基礎的、誘導的教育の本領は適當な感情を伴はせた觀念を與へるといふことにあると思ひます。同じく直觀教授と言つても小學校の直觀教授とは違つて、幼稚園では感情を伴はせた直觀教授を行ふことに努めなければならぬと思ひます。それで當日は式場へも神武天皇御東征の圖と日本の地圖とを掲げて置きます、いづれも特に綺麗に描かれ、はれやかに彩色せられたものを選ぶのであります。幼兒が日本地圖を見ても分らない

のは勿論でありますが、これが日本の國といふことだけを臆氣ながらも感じさせることは極めて適當な處置であると信ずるからであります。

要するに紀元節に際しては、この祝日に關する智的事實を多少誘導し、それに伴ふべき適當な感情を懐かしめるやうにするのであります、而してこの目的を達するために繪畫とお話と儀式と菓子とを適用するのであります、尤も舉式に關しては別の意味即ち教育の手段としていなく、國民としてこの日を祝ふといふ意味の含まれて居ることは言ふまでもありません。

それからこれは幼稚園の仕事として不適當でありまして、寧ろ家庭で行つて頂きたいことではありますが、紀元節などには父兄の方々が幼兒を連れて二重橋へ行き、大官が盛裝して參内するところなどを目のあたり見せたり、街を歩いて國旗が戸毎に掲げられて居る有様などを見せたりすること

も前に述べた紀元節らしい氣分を幼兒の胸に育ませるために大變効果があること、思ふのであります。これなどは幼稚園では一寸實行しにくいことでもありますから家庭に向つて切望する次第であります。一體斯る祝祭日には家庭と連絡して祝ふときには幼稚園だけで行ふよりも効果は二倍或ひは三倍になるであらうかと思ひます、即ちこの祝祭日には家族が一同揃うて宮城の方へ向つて遙拜するといふやうな適宜な方法を取つて家庭的にもこの日を祝ふのであります、さうでないに幼兒は斯る祝日には幼稚園若しくは學校で式だけを擧げるものと思ひ込んで了ふのであります。それから幼兒が幼稚園から貰つて來た記念物とか菓子とかを適當に處理してやることも極めて大切なことであると思ひます。つまり幼兒の氣分の向いて居るのに乗じてこれを誘導するやうに心掛けるのであります。

○

紀元節には午前十時から式を擧げます、式場には紅白の幔幕を引きめぐらし、正面には紫の幕を垂れ、その中央を引絞つて房を下げます、正面の奥まつたところに國旗を交叉し、其上に 兩陛下の御寫眞(複寫)を掲げ參らせませす。

式の順序は一同集合しますと最敬禮をいたします、それから君が代を一同合唱し、終つて園長が祝日相當の訓辭——紀元節とは如何なる日であるかといふことを平易に話して、その日の心得などを申添へます、次ぎに來賓の祝詞があります、(これは無い時もある)、次ぎに幼兒の總代が起つて「紀元節、おめでたうございます」といつてお辭儀をします、幼兒一同もこれに連れてお辭儀をいたします。今まではこれで式が終つたのでありますが、今年はこの後で大正幼年唱歌の「紀元節」を唱

### 城 東 幼 稚 園

つて式の締め括りをつけやうかと思つてゐます、しかしこれは未だ確定はいたして居りません。式は全體で二十分位を要すると思ひます。式が終ると幼兒には菓子と與へて歸宅いたさせませす。菓子といふのは紅白の鳥の子餅でありまして、經木の上に二つ並べて白紙で包んであります、包紙の表には國旗が交叉してあつて祝といふ字が一字書いてあります。

當日の式に案内する方々は區の名譽職、區長、及び園のために設けられて居る懇話會の、幹部等であります、何時も大抵四五の方々が見えらるるだけであります。

幼兒の父兄及び附添人等にして當日の式に參列することを希望する向には參列を許して居ります、但し是等の人々には幼兒の後方に立つていた



いくことになつて居ります。而して君が代を唱ふ時に幼児と合唱していただきます。小さい幼児が極めて静肅に式を行つて居りますので、それに化せられるのでせうか附添の人々も至極静肅で、眞面目に式に参列いたして居ります。

紀元節近くなりますと當日の唱歌を練習したり總代の豫習や最敬禮の練習等を行ふことは無論であります。

お望みに任せて當日の式の具體的方面のみを特

に申次べた次第であります。

### 紀元節

昔、神武天皇が

悪ものどもを平らげて

始めて、天子の御位に、

おつきなされた芽出度い日、

その日は二月の十一日よ。

祝へや、祝へ、紀元節。

(「大正幼年唱歌」第四集より)

### 東洋幼稚園

紀元節の當日には園長、保姆及び東洋家政女學校の職員生徒一同は午前六時二十分までに宮城前の楠公銅像の前に集合いたします。而して一同二重橋前まで行つて君が代を二回合唱いたします。

まだ黎明の大内山には松ばかりが鼠色の朝の大氣の中に濃い影を見せて居ります。一同が君が代を

唱つて居る間には團々たる朝暾が現れて、その第一光が大内山を輝かしく照らし出します、實に莊嚴といつたら是程莊嚴な光景はありません。生徒の中には莊嚴の極、涙を流すものもある位です。君が代を合唱して了ふとまた楠公銅像前まで戻つて來て藤田東湖の正氣歌を一同合唱して後解散い

たします。

園長及び保母はこの深刻なる印象を持つて園にかへり、幼児達の登園を待つのであります。

九時までに幼児が皆集あひたします。これから式が始まります。

式場は野天です。壘なら二十枚も敷けませうか——兎に角幼児の運動場の三分の一位を占めて居る日本一の大きな砂場の砂を掻め集めて砂の山を築きます、而してこの山の上に國旗を樹てます。



當園は二月の三日が開園記念日にあたりましてこの日に多少催しをいたしますので、紀元節は簡單に、しかし嚴肅に執り行ふことにいたして居ります。

三日の記念日が過ぎますと直ぐに紀元節の唱歌を練習したり、分り易く神武天皇の御事蹟を話し

幼児はこの砂山を一列になつて取り巻きます。而して君が代を二回合唱し、大きな聲で「萬歳」を言ふのです。式はこれで終ります。

當日は幼児に、歸る時に菓子や玩具を與へます、蜜柑を與へたこともありませう。何時でしたか、幼年雜誌を發行して居る方々の社へ日の丸の繪の入つてゐる幼年雜誌があまつてゐたら下さいとお頼みして方々から貰ひ集め、幼児に菓子と共にお景物として分け與へたこともありませう。

### 江 東 幼 稚 園

たりします。而して紀元節の前日、即ち十日には幼児達が日の丸の旗を作ります。半紙を四つ切りにして、これへ丸く打抜いた赤の光澤紙を貼り付け、ヒゴの旗竿へつけます、ヒゴの兩端には豆がついて居ります。三の組の幼児はまだ小さくて國旗などは作れませんから、大きい幼児が代つて作

つてやります。

當日は式場には紫と白の幔幕を引きめぐらし、正面には紫の幕を掲げて、その中央を引繰り、房を下げて置きます。式は午前十時から開始せられます。順序を申しますと幼児が式場に入ると直ぐ名譽委員も着席いたします。敬禮があつて、君が代を二回合唱し、それが済むと園長の訓辭があり、續いて紀元節の歌を二回合唱いたします、この紀



紀元節に因で金鷄勳章を作つたり、弓を作つたりして紀元節前後の三四週間を送ることは大抵どちらの幼稚園でもなさつていらつしやること、思ひますから別にお話することもないと存じます。

紀元節の式は莊嚴に行ふことにいたして居ります。時間は極く短くして出来る限り莊嚴にすることを心掛けて居ります。式場には幔幕を張り、宮城の方向に花を供へます、而して一同宮城に對つて、遙拜式を行ふのであります。

式の順序を申しますと、幼児が着席し、續いて

元節の歌は當園だけで用ゐて居るものでありまして、歌詞は次のやうなものであります、

日本の國のはじまりし、めでたき日なり、  
子どもらよ、照る日の丸の旗たて、

いはへや、今日の紀元節。

以上で式は終ります。幼児は記念菓子と昨日作りました國旗とを貰つて歸宅いたします。

#### 朝 海 幼 稚 園

名譽委員、來賓等が着席いたします。それから辭儀をして、君が代を二回合唱いたします、これが済むと一同最敬禮をいたし、園長が「謹んで朝海幼稚園の職員幼児一同紀元節を祝しまつる」と祝詞を申述べます。それから園長が凡そ三十分位、紀元節の由來に就て話したり、時には金鷄勳章のお話をしたりします。右が終つて來賓の方でお話下さる方があればお話願ふことにしてあります。さてその次ぎに、例の「くもにそびゆる」の一番と四番とを唱つて式が全く終ります。式は全體で三十分ばかりです。幼児は記念菓子を貰うて歸宅するのであります。

# 節 分 の 話

## 村 尾 節 三

節分は古はせちぶん又略してせちぶと稱したりしが、近世はせつぶんと稱せり、立春立夏立秋立冬の前日を節分と云ひ、一年四回なりしが、後世は立春の前日をのみ稱となり、朝廷にては近世節分の夜御祝あり、武家にては、足利幕府の時より恒例の行事となれり、此夜豆をまきて、福は内鬼は外と稱へて、悪鬼を驅逐するは、往古十二月晦日の夜禁中にて行ひし、追儺の儀式を模倣せしならん、徳川幕府にては福は内くと二抓、中音にて二聲、鬼は外と一抓、大音にて一聲唱へ、九鬼家にては、節分の夜は、主人恵方に向ひ、坐に就き、年男豆を持出、鬼は内福は内富は内と唱へて二豆を主人に打つけ、次の間にては、鬼は内福は内鬼は内と唱へり、朝廷にては古は勾當内侍、御豆を主上の御年の數、鳥目御としの數を、引合と云ふ紙一かさねに包み、御やく拂と稱して、御前に持ちて來るを、主上其やく拂を以て御身を撫でられて返さる、勾當内侍給はりて、後を顧みざるやうにして退くなり、民間にては豆撒きの豆を拾ひて己の年齢の數に一箇を加へて厄拂と稱し街上を行く者に與へ、祝壽驅邪の詞を唱へしむ、其唱句に魚盡し橋盡し其他種々あり、厄拂は大朔日、正月六日、十四日等にも來れども、豆を與ふるは節分の夜のみなり、今日民間にては門戸に柊及び鯛を挿む慣習あり、是れ又厭勝の爲めなり、節分の慣習漸次衰へゆくは時代のしからしむる所なれど、邪を驅ひ吉を招くの行事は、人心を新たにするの利あれば、存したきものなり。

# 七 不 思 議

み な と

## 第二 當園は自發を重んずべし

ふと通り掛りに目に入つた〇〇幼稚園、丁度幼児の登園盛り、むら／＼と何時もの好奇心が起つて、身は既に玄關に、間もなく應接室にと案内せられた。

會集が始まるとのお知らせに園長に導かれて設けられた席につく、園長の合圖で「我子よかれと父母が」を唱ひ始めた、終ると一隅から「桃太郎」と叫ぶ。「桃から生れた」が唱はれた。其次は何を唱ひませうと先生のお尋ね。「日本男兒」と叫ぶ。其叫び聲は前と同じ幼児。「我等は日本男兒なり」と唱ひ始めた。動作を交へるものもあり、交へぬもあり。聽てそれが終ると、さあお遊戯をませう。何がおよろしいか。「五條の橋」と叫ぶ者があつた五條の橋。次ぎ／＼と尋ねては始める。私の耳に

幼児の答へる聲は何時も同じ聲が聞えて、唱歌遊戯は二人の幼児の占有で、他の多くは犠牲になつた様な心持がした。

會集が終ると自由遊戯に移つた。「さあお遊び」と先生のお聲の終らぬ内に、ワット散つた。窓に上るもの、飛下りるもの、腰掛を渡るもの、机に上つて踊るもの、それは／＼實に喧がしき事限りなし。ふと窓の外を見ると二三の幼児がバケツトに水を入れて運ぶ。見れば砂場にはどろ／＼木鍬で掻き廻す。お椀でしやくふ。手と云はず、着物までどろだらけ。おや／＼先生はと見れば、園長さんが黙許か公認か、心に懸る雲もなしといふ御様子。其内にチリン／＼おならび、お室に入る。三つのお室積木、先生のお机に箆に盛られた積木さあ積木でお遊びませう。皆さんのお入り用だ

けお取り。ごたく集まつて手に掴み切れぬ位抱へるのもあり、謙遜家ほど迷惑の様子、各積木を机の上に置いて唯何んとなく積む。崩す又積む。

大半は其やり口で其中にふと思ひ付いて何か出来上つた様子、二三之組も同じ様。

食事の時間と見えて小使の配る湯と茶碗。無雑作に食事の仕度、食事が済めば、すぐにすん／＼外へ出る。

又前の自由に歸つて大騒ぎ。あちらでもこちらでも喧嘩が始まる。先生○○さんがと訴へに来る「そうですか、そんな事を爲てはいけませんとおつしやい」と先生は答へる。遊具は少しあるが、強い者勝ち。共同に遊んで居るのを見ると會集の時に叫んだ幼児が統御者となつてあとの子供はこれに壓迫せられて居る。あゝ可愛想。

チリンチリンおならび。室に入ると描き方。紙と鉛筆は思ひ／＼に取りに来て席につく。「何んでも皆さんのおよろしいものを」と命じられ。幼児

は何を書こうかなあと思案の果ては男の子は軍艦飛行機、旗、女の子はお山に花、人形、それも十六切りの小さな紙で鉛筆も色が揃つて居ない。幸福の者とそうでない者がある。

「けふのけいこがすみました」を唱つて皆歸る。

園長に御高見を承りたいと懇請して應接室に入る。

園長「どうも別に御覧に入れる程で御座いませぬ、どうぞお氣付きでも御座いましたら御遠慮なく。

自分「いやどうも有り難う御座いました。氣付きと  
ころでは御座いませぬ。一つ教へて戴きたいので御座います、

□別に申上げる事も御座いませぬが、お尋ねがあれば、

×あゝそうですか。甚失禮ですが二つ三つ伺はして下さい。今日拜見致した處で。子供にどんな

獲物がありましたのですか。

□獲物といつて別にこれと申すものも御座いませ

んが。あゝやつてめいゝの思ひ通りに遊ばせますから、身體の方面が丈夫になるでせう。きのふは折紙でしたから土産がありました。一週三回は何かお土産を持たせて歸しますが、

×どちらの幼稚園でも皆同じ様になさつてゐるか。  
□いゝえ、其園長のお考へでいろいろです。つまり主義方針とでも申しませうか。それが違ふのです。

×はあ左様ですか。失禮ながら當園の主義方針は？

□別にそんな六ヶ敷いきまりは御座いませんが、強ひて申しますれば、自發的を大切な事と思ふて致して居ります。

×自發的と申しますのは。

□幼児は何かしたい〜と何時も心身が活動するものです。それを妨げない様に、云はゞ干渉しないで、幼児の思ふまゝに遊ばせるのです。

×それでは放任のことですか。

□いゝえ放任とも違ひます、自由に致してやるのです、それで御了解でせう。(自分どうも解らぬ故少し頸を傾けると)

□まあ今日御覽の處で申しますと。

會集の時に唱歌遊戯を幼児に撰ばせたのは其意味です。(自分思へらくあれは確に二人の幼児の叫び聲。さうすると二人の意志——二人の自由？はてな)

自由遊戯の時子供の活動振りは、あれが全くの自由です。保姆は見ても見ぬ振り(自分曰くあまり見ない様であつたが)で全く干渉しません。あの積木の時あれば普通には一箱與へますが、當園では自由に取つて作りたい物を勝手に作らせます。

圖書でも其通り自分の好むものを書かせるのです。

×それで先生のお考へは大分了解致しました。

あゝ自發的なるかな誤解も甚しいではないか、

自由と放任と干渉。随分と河野先生が自由について書かれた事もあり、倉橋先生が自發的について噛んで含める様に書かれた事もあるのに。

要するに此園は

一 當園は自發主義を保育の第一義とす  
(註)偶然的氣まぐれは幼児生活の大切なるもの誘導及び統制は學者の論にして實際家の取るべき所にあらず

二 當園の主義は家庭に徹底せしむるを要す  
保護者より幼児の性格につきて、「近頃粗暴になりたり」「親の命令は少しも用ゐぬ」「言語も行爲も野卑になり來れり」など申し來るも、  
そは幼児の本能にして教育上差支なきものなる事を説諭すべし。

三 形式を重んずべからず

机椅子の破損、位置の亂雜等、幼児の爲めに起れる事は頓着すべからず

幼児の服装は勿論保姆と雖も容儀を整ふる事

は誤れる事と心得べし

室内に花を飾り額を掲ぐる等は無意味です。

先づ此の位にして勿々辭して門を出た。ふと自分の履物を見た。よくまあ下駄の履ちがへをしなかつた。

### 第三 模倣即教育

參觀の前置きは止めて短刀直入すぐに本題に入る事と致しませう。

會集の始めは木口小平の話であつた。いくらか碎けて話された様であつた、が五歳以下には如何でしたか。

次に先生が一段高い所に上つて、さあ私の致します様になさいと、頭の運動手の運動足の運動と順次に先生がやる。幼児が真似る。筋肉がどう運いたか先生と幼児との動作はよく似て居つた、圓形に行進を爲しつゝ幼児は、保育室に入れられた。一二三組共摺紙であつた。示範すべく立派な標本が出来て居る。先生は先づ其標本によつて其の何



物を問答して目的の指示とも云ふべくさあこれから此を作るのですと幼児に話しつゝ、其れを解いて片隅をビンで黒板に止めた。幼児の紙の位置を一定せしめて、先生が一つ折る。幼児が之れに倣ふ。又先生が一つたゝむ。幼児其通りになす。斯くて順次に進行せしめて一つのふくら雀が出来た。先生。皆さん出来ましたか。おうよく出来ました。嬉しいいでせう。幼児は天から落ちた鳩の様な目をして黙つて居る。中には止むを得ざる喜び顔が見えた。先生。ささ雀の唱歌を唱ひませう。オルガンに引づられて唱ふ。二の組へ行つた。鶴が矢張黒板に張られて、教順は一の組と同じ様である。マーチで室を出るにも足柵子を揃へて居る自由遊戯に移る砂場が大繁昌だが、割合に道具がない、遊戯室や保育室に玩具の戸棚がある。玩具も随分立派なものがある。箱入になつて見えぬものも澤山ある。見える玩具は整然と陳列してあるが、一向使つた形跡もなく、又あまりに遊びに用

ゐられぬものが多い。幼児は唯あちらこちらと駆ける。家から持つて来た鞆をつく。先生の手袖につかまつてぶらぶら。

食事の後に唱歌遊戯。初めは音階、次に一句／＼右の有様を參觀し終つて、園長と幼児の保育上の問題に話しを向けた。

要するに此の園では會集の時毎週三回は修身的講話がある。體操は毎日一回で、積木は三寸のを教師用として先生が作らしめんとする物を教卓に作りて見せて後先生に次々に幼児と順次に爲さしめる。豆細工も然り。繋ぎ方も同様の手順である。とのお話しであつた。そして先生は之れを具體的なりとし幼児は年齢知識の上から具體的であればならぬと説明された。具體的は果して模倣そこで不遠慮に云はしむれば。

一進歩せざる小學校の感がした

二體操と云ひ手技といひ、皆目より入れて居る準備はよく届いて居る様であるが、模倣を主

として居る。

三従つて幼児の活動性を無視して居る。

四創作的人物が出来なくて、依頼心のある従屬的の人が出来上りはせぬか。

五玩具迄も目を主として居るのは罪な事ではな  
いか。

#### 第四 ほまち保育

一口公園を散歩した。小山に登ると既に三人の婦人がよい眺めのベンチを占領し盛んに話して居る。聞くともなく耳朶を打つたのは先輩や同輩の批評。しかも先生としての人柄を説いて居る。これは又何かの種と後ろのベンチに腰を下ろす

□ねえ○○さん、あなたそんな事をおつしやるけれど、随分そういふ方は多いのよ。私のとこの○○さんはね、矢張始めは自活問題からよ。あの人はね、お國を出てこちらで何かしたいといろ／＼苦心した結果、保姆になるのが試験もやさしいし一番近か道だとお考へになつて、そして試験に合格

して就職なすつたのよ。

×そう私の方の○○さんは資格は本正ですとさ。小學校を十何年とかやつて、もう年は取るし段々いろいろな研究とか何とか六ヶ敷なつて來たし、幼稚園は時間も短くて樂だからといふので保姆にお變りになつたのよ。

△私の方の○○さんもさうよ。

△○○さんはね、子供が大すきで幼稚園の先生になつたらさぞ面白からうと思つてお始めになつたのよ。

×それは本物だわね。○○さんはお家がお二人切りで、ひまで困るし、おからだも弱いからですつて。

△○○さんはミッシヨンを出て、ミッス○○先生に勧められて去年からお始めになつたのですとさ。×まあ保姆になつた動機はいろ／＼ですね。其動機のうちでも「子供がすきで始める」といふのは一番きれいなね。

□「年を取つてしかたなし暇もある樂な所」と云ふのが一番具合が悪いわ。

△それだから御覽なさいな。△△幼稚園は唯先生が來て幼児が來て、談話や唱歌や手技はやつても意味なしよ。

△意味なしつて何に？

△大變六ヶしい事になつて來てね。まあ云へば夢中でやつて居ることよ。子守が遊ばせるのも同じ位よ。唯オルガンがあつたり恩物があるだけ。

×それじゃあ隠居仕事見たいね。

△年を取つた隠居と若い隠居があるのよ。

□ほんとよ。随分其隠居仕事は多いつてね。併しね○○さんの様に動機は立派でなくても、保母になつて見たらこんな面白い事はないつてそれは／＼一生懸命よ、

△あの人は熱心ね。行つて見て居るとほんとに自分迄いゝ氣分になつてね。此の間も一人手こずり者をお直しになつたといふ話しよ。

□○○さんは不幸よ。……どうしてあの方は熱心でしよう。それに技倆はあるし。人格もいゝでしよう。御自分ではもつと／＼研究したいと思つて居らつしやるのですけれど、園長さんが、いろいろの會へ出すと他の幼稚園へあの人を取られやしないかと心配して、會の通知が來てもお見せにならないのですつて。それで○○さんもつい知つて居ても出にく／＼なるつて。

×まあひどいわね、お可愛想に。

△あら、もう遅くないこと。(時計を出して)、もう五時よ。あゝ大變だ家へ歸るのが遅くなるは。

あゝ残念今少し時間があつたら、尙一層興味ある事を聞くべかりしに。併し此の短き時間に思ひ掛けぬ動機論……寧ろ種別と其仕事の一端を窺ふを得たのは頗る愉快であつた。又大に三人の未知の方に心から感謝せざるを得ぬ。

動機はいろ／＼あらう。併し幼児教育者になつてから後迄、其時の氣分を續けられては甚迷惑な事もある。さなくとも慣るゝに従つて鈍感になり易い傾向は誰しも同じ事である。

# 保育の教材と方法とに關するデエー 教授の意見

紹介子

## 一 教材に就て

幼児教育に於けるシンボリズムは極めて有害なるものである。之れは出来るだけ避けなければならぬ。斯くて、出来るだけ現實な眞な物、そのまゝによる教育をしようとするには、教材を、兒童の平生親しく接觸するもの、中から取ることに注意しなければならぬ。而して此の理由から幼児教育の教材を家庭生活に取るといふ吾人の主張が生れるのである。

蓋し、家庭生活は兒童の平生最常住に接觸する處のものであるのみならず、倫理的價值に富める多くの教訓が其中に無限に含まれて居る。しかも

吾人が、吾人の幼稚園に於て、教材を家庭生活に限つて居ると、其の餘りに狭いといふことで批評を受ける。しかし、此の狭い處に、即ち教材を局限する處に却つて如何に積極的意義のあるかを考へられなければならない。彼の無暗に範圍の廣い教材（すなはち、工業界、軍隊、教會、國家といふ風に）を用ゆることは、四、五歳の幼兒の經驗の外のことを用ふることは、幼兒に眞の理解を與へないことで、おのづから無意味なシンボリズムに陥らせて仕舞ふことを免れない。のみならず其の知性の發達の上に及ぼす弊害は極めて多からざるを得ない。いろいろのことを、眞の理解を持たず、従つて何等眞實な情緒的反應なしに弄んでゆ

くといふことは、幼兒の心を知的に冷淡なものたらしめ、一切の直接現實の經驗に何等の興味をも持ち得ざらしめて仕舞ふ。かくて、彼等が小學校に進んだ時、其の新らしい、嚴格な意味で知的に取扱はるべき教材に對して、何となく既に經驗せるもの、如き感じから、興味が弱いものになつて仕舞ふことも起つて來る。幼兒教育がこんなことをして幼兒の生活を淺薄なものにして仕舞ふならば、其の罪は實に大きいのである。

且又、徒に範圍の廣い教材を用ふることは、幼兒に一つの事から他のことに、次に／＼心の移つてゆく習慣を養ふ危険がある。全體幼兒には、可なりな忍耐と或種の繼續力を持つて居るものである。勿論、一方には、幼兒に新奇を求める性のあることも事實である。そうしないと彼等は倦んで來る。吾人も亦、決して幼兒教育は單調であつてよいといふものではない。家庭生活は教材として、決して單調のものではない。その中に生活の

諸方面の種々の變化が含まれて居る。たゞ、全體を通じて關聯の感じがある。之れが大切なのである。さて此の關聯といふことは、兒童にとつては只一つに教材そのものに存する。すなはち此場合に於ては、幼兒は、今は此方面のことをし、次の時には、他の方面のことをし、此部分をし、他の部分をするといふ様に、其時々々の注意の向け處は違つても、つまりは家庭生活といふことに統一する。然るに、教材の範圍が徒に廣い場合には其の各部の間に、それ自身としての關聯がないから、外から關係をつけなければならぬ。そこで強めて造り出した順序で關聯をこしらへるといふ様なことになる。而して此の順序的關係のつけ方は、純ら知的(理論的)な關係である。爲に教師にのみ其の關聯がよく分つて居て、幼兒には少しも分つて居ないといふ様なことが起る。それでは少しも幼兒教育に適しないのである。

## 二 方法に就て

幼児の教育の方法の要訣は、児童の自然の衝動と本能とを捕へ、且つ之れを利用することにある而して、之れによつて、児童の智覺或は判断を高め又一層有用なる習慣を有せしむる様にしなければならぬ。又、其の意識を廣く且深からしめ、其の意志の統制の力を強からしめなければならぬ。若し此の結果を得ることなくば、幼児の遊戯は、たゞに娛樂に終り、何等教育的價値を有しないものになる。

ところで、此の二つの要訣（即ち本能の捕捉と利用と）を並び失はない爲には、一般に、構成的作業が一番適當して居ると思はれる。蓋し、構成的作業は児童自身の衝動に初まつて、一段高い處に結末するものである。而して、此の作業に於て、児童は實に各種の材料に接觸し、其の接觸せる諸材料は以て實際的に之れを使用しようとする動機を促す觀察を、精確周密ならしめ、作らるゝ出來上りに就て、明瞭なる想像を養ひ、ものゝ計畫に

必要なる工夫發明の力を生せしめ、又集注的専心と、遂行に關する自己の責任を経験せしめる。のみならず、其の出來上りは、児童自らが親しく視且つ觸れ得る處のものであつて、即ちみづから自己の作品を批評し、其の標準を向上せしめる。構成的仕事は、實に之れ等の貴重なる種々の利益を有して居るのである。

しかも、吾人は、幼稚園教育上此の問題に關して、一言して置く必要があると思ふことがある。それは模倣と暗示の心理に就てである。幼き兒童の心が非常に模倣的で、被暗示性に富んで居ることとは言ふ迄もない。又、之れ等によつて、其の粗奔なる力、未熟なる意識が豊富にされ、指導されてゆくものであることも言を俟たない。しかも、茲に深く考ふべきことがある。それは、之れ等の模倣や暗示を用ふるに際して、其の兒童の心との關係である。蓋し全體の原理として、模倣によつては如何なる活動と雖も創造せられることはない。出發は兒童から出なければならぬ。然る後、その茫漠に考へて居ることにハッキリした形を與へ

る爲に、お手本が役に立つて來るのである。即ち模倣の効果は、活動にあるのでなくして、觀念を明確ならしむる處にあるのである。兒童が、實行に當つて迄、其の手に捕へられて居て、自己の心得に歸ることがないならば、彼はよりかゝるだけで、眞の發達は出來ない。つまり模倣は、はげまし助くるものであつて、創造するものではないのである。

是に於て、教師は、兒童がそれを意識的にあらはして來るまでに、何かを暗示する必要はない。寧ろ、心ある教師は、兒童みづからが自分の本能の意味し要求する處を知らない前に、こちらから察して仕舞ふのである。暗示は兒童の發達なる主なる傾向に一致して、それを外から適宜に刺激してゆく性質のものでなければならぬ。そして、兒童が識らず／＼に求めて居る處のものを誘ひ出すのである。而して、兒童が暗示に應じてゆく態度如何を觀察して居る時に、その暗示が兒童自身の發達を進める役に立つて居るものであるか、或は外から無理に押しつける様な働き方をして居る

ものかといふことが、よく分るものである。

以上と同様の議理は所謂指定作業の場合に於て一層充分に通用する。凡そ、兒童を其の放肆なる勝手の想像に放任して置くことゝ、一々外から指圖することによつて其の活動を支配してゆくことと、此の兩極端の間に、何等中正の途のないと考へて居る人達程不明な人はない。前にも述べた如く、兒童の發達の其の時期に於て如何なる力が發露しようとして居るかといふことを見、而して、如何にして、之れを誘導し、發表せしむるかを知らるこそ、教師の任務といふものである。然るに、たゞ指定につぐに指定を以てして教育するならばそれは幼兒が以て表出すべき自分の心像を少しも持つて居ないといふことでなければならぬ。更に、徒に指定に盲従してゆくことは、自己統制の力を増すことではなくて、失ふことである。自分以外の原動力に寄りかゝらせてゆくことである。

Dewey: the School and the child の中より

## 吾々は幼児を尊重する

### 人でなければならぬ

吾々は幼児を愛する人でなければならぬ。吾々は幼児の爲を思ふ人でなければならぬ。しかも、それだけでは足らぬ。吾々は幼児を尊重する人でなければならぬ。

幼児を尊重するといふことには、いろ／＼の意味を含む。第一、幼児を一個の人格として尊重することである。此の子が成人したら、如何にえらいものになるかも知れない。故に、今は小さい子供だからとて、これを輕侮してはならぬとは、人のよく言ふ處である。又、之れ大切の家のあとゝりである。大切なる第二の國民である。故に心して尊重しなければならぬとも、よく言はれることである。之れ等の考へは孰れも正しい。こういう意味からでも眞に幼児を尊重するならば、それは結構なことである。しかし、かういふ考へ方の他

に純な一個の人格として、小さくとも一個の人であるといふ尊重をも感じなければならぬ。吾々の被保育者であるには相違ない。しかし、それは吾々との教育の作用上の關係に於て被保育者の位置に置かれて居るので、其の人格としての絶對の尊嚴は、被保育者なるが故に保育者たる吾々と一毫の上下あるものではない。吾々は幼き被保育者として取扱ふことにのみ慣れて、一個の人格として尊重することを忘れてはならない。抑も教育の最後の目的は、被保育者の人格的尊嚴を擴大し、完成するにある。果して然らば、先づ人格として尊重することなしに、何の教育が出来やうぞ。徒に、軽く淺く、幼児を被保育者としてのみ遇して其の人格を尊重してやらないならば、之れ實に人の子を賊するものといふべく、又人の道として最大の罪惡である。

○

人格としてのこの尊嚴は、大人と雖も幼児と雖



も變りはない。しかし、其の人格の内容的價值は幼兒に於ては未だ小さい。是に於て、吾々は、幼兒を人格として尊重しつゝも、具體的に、實價的に、之れを小さきものとしか見られない。之れは勿論一通り無理のないことである。また、それが必ずしも悪いことではない。しかし、吾々は或る一事に注意を向ける時、具體的にも、實價的にも、幼兒の生活を尊重せざるを得なくなる。その一事とは何か。發達といふことである。幼兒の自ら有して居る、其の偉大なる發達の力である。

幼兒の現在は未發達者である。しかし、非常なる發達力を有するものである。彼れの本質は、其の未發達なる幼弱狀態それ自身ではなくして、旺盛なる發達それ自身にある。吾々は、此の點に於て幼兒を見る時、たゞ驚嘆し、尊崇することを知らぬのみである。元より、此の發達力は各幼兒によつて大小の差のあることもある。しかし、如何に小なるものも雖も目ありて見得るものには、驚かるゝの他はな

いのである。而して、此の發達なるものは、幼兒各自が有する處ではあるが、それは寧ろ自然それ自身が有す處のものである。それが幼兒にあらはれて居るのである。是に於て、吾々が幼兒の發達に驚嘆することは、即ち自然の大に驚嘆することである。此の意味に於て幼兒を尊重することは、すなはち自然を尊重することである。反對に、此の意味に於て幼兒を尊重することを知らないものは、自然を尊重することを知らないものである。愚といはざるを得ない。しかも亦、自然の理法としては『發達』を理解して、一人々々の幼兒に於て此の尊重を感じ得ないならば、之れ實に空なることゝ言はざるを得ない。

○ 幼兒を尊重するものにして始めて其の尊重すべき幼兒を教育する自分の事業を尊重することが出来る。かくて、吾々が幼兒を尊重することを知らない時に吾々は幼兒を輕侮すると共に、吾々自分を輕侮することになる。

## 校正の後に

△二月となれば寒さも絶頂、やがて寒いながらも一脈の春意はわづかに土をもたげた草の芽からも看取されるであります。

△二月はたい寒さが故に愛せらるべきであります寒さにつつかつて行く覺悟がある時、人は二月に對して私かに感謝の念を禁じ能はぬであります。それは己を引き締めてくれる恩人であります。

△本號の卷頭語「保姆その人」「何を以て導かんとするや」は目下の幼稚園をして生氣ある上にも生氣あらしめ、光彩ある上にも光彩あらしめんと努めらるゝ倉橋先生の周匝なる言葉であります。幸ひに讀者の御熟讀を望む次第であります。

△「紀元節と幼稚園」は締切期日切迫のため、地方の幼稚園から、御意見を伺ふことの出来なかつたのを遺憾といたします。今後隨時この種の問題に就て諸幼稚園から御意見を伺ふことにいたしました

と思ひます。

△本誌も追々ジャーナリスチック——勿論いゝ意味での——になつて行くべく編輯會議の際打合はされて居ります。頭で書き手で書く以外に足で書き目で書かうと言ふのです。これは前々から久留島先生や岸邊先生から御注告に預つた所で、本誌が諸先生の御意見に基いて漸次改善せられて行くことは誠に喜ばしいことであります。

△本誌に「節分の話」を書いて下さつた村尾氏は每號この種の年中行事に就て御執筆下さることになつて居ります。

△みなとの匿名の下に每號鋭利な幼稚園觀察をものされる某氏の「七不思議」は大分評判になつて居ります。これは次號で完結します。

△菅原先生の「色彩の心理」は非常に有益な文字であります。該記事は私かに本誌の誇とする所でございます。まだ十回位は續く豫定でございます。(記者)

# 色彩の心理 (二)

文學士 菅原 教造

## 十一 色彩感覺系統の第三方面——明度

明度は光度とも明暗とも又明るさとも名けられる。一言すれば(一)色の有ゆる飽和の變化と(二)色の有ゆる調子の變化を光感覺の値即ち白・鼠・黒の値に翻譯する事である。そして此の翻譯の仕方に二種の區別がある。

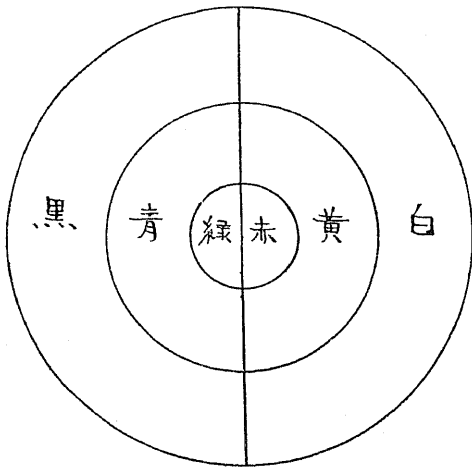
第一に、例へば第六圖に於て赤と鼠赤(錆肉色)とは明度が等しいけれども、淡赤(とき色)は赤よりも明るく、濃赤(海老茶色)は赤よりも暗い。斯の如くに赤なら赤と云ふ一つの色調に就いて其飽和をいろいろに變へて、赤・淡赤・鼠赤・濃赤と云ふ風に色が並んで居る場合には、それ／＼其明度を比較する事は割合に困難でない。何となれば色調が赤で統一されて居るから、之を光感覺に翻譯する、即ち赤を鼠に置き換へる事が容易に出来るからである。

第二に、第五圖に示したやうに、全く色調を異にする十色同志の明度を比較する場合はどうであるかと云ふに、色に依つては前の場合よりも餘程此の置き換へが困難に成つて来る。尤も明度の差の著しい二色、例へば黄と青や鵝と紫などの比較では、明暗の差が著しいから割合に困難ではないけれども、赤と緑とか樺と牡丹色とか樺と鵝とかのやうに、色調の差が著しくつて、しかも明度の差の少ないものに對しては、どつちが明るいかと云ふ決定を下す事は決して容易でない。例へば淡綠色のベンキを塗つた建物が東に面して立つて、其背景たる西の空には夕陽のオレンジ色が一面に漲つて居るとする。此の時夕焼のオレンジ色と建物の淡綠色と孰れが明るいかと云ふ實際問題を解決するのは、素人に取つて容易な事ではない。何となれば素人が色調の違つた色を比較する時には、常に色調の差丈けに注意を向ける癖があつて、其二色の明

度の差などには殆ど注意しようとしな、加之、空は明るいものと云ふやうな先入觀念がかなり強く働いて、實際の明度の判断を迷はせる事が普通である。之に反して絶えず色の明暗に注意を向けて居る畫家などは、すぐ二色の明度を比較して誤らない判断を與へる事が出来る。

併し色の明度の判断と云ふ事は、決して畫家と云ふ専門家にのみ關した問題ではない。此の問題が工業上に應用されるとかかなり大切なものに成つて来る。其最も適切な例は電球の燭光を定める時に行はれる。即ち五燭・十燭・二十燭と云ふ燭光の数字的规定は、一燭と云ふ標準燭光に比較したそれ々の電球の明度の大きさを示すものである。之を決定するにはフリッカー・フォトメーターと云ふ器械を用ゐる。此の器械は追々に改良されて行くが、原理は割合に簡單なものであるから、其大要を述べて見る。第七圖に示すやうに、白黒を半分づ

第七圖



塗り分け（或は組み合せ）た圓板（第一圓板）の上に、黄青を半分づ塗り分けた圓板（第二圓板）を重ね、更に其上に赤緑を半分づ塗り分けた圓板（第三圓板）を重ね、此の三圓板を餘り早くなく廻轉して見る。第一圓板の色は白と黒であるから二色の明度の差は最大である。第二圓板の色は黄と青であるから、二色の明度の差は第一圓板ほど多くはないが決して少ない方ではない。第三圓板の色は赤と緑であるから色紙に依つては二色の明度は殆ど等しい、たとひ等しくないとしても二色の明度の差は極めて少ない。扱て此の三圓板を重ねて一緒に廻すと第一圓板には、黒と白が非常に著しく眼まぐるしい程に現はれる。第二圓板の、黄と青は第一圓板ほどに著しくないがそれでもか

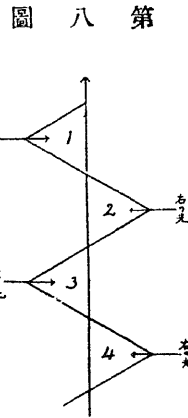
なりに現はれる。第三圓板は殆ど、黒と白が現はれない（どんなに明度の差のある二色でも、非常に早く廻轉すれば、

くは少しも現はれない。それ故此の實驗をする時には餘り速く廻してはいけない。此の實驗に依つて「明度が等しくなれば全くちらくが現はれないが、明度の差が大となればなるほど此のちらくが著しくなる」と云ふ原理を立てる事が出来る。

此の原理を應用して電球の燭光を計るには、右と左から燭光を受けた其左右の面が、交るく眼に現はれて来るやうに

廻轉する立體の形を工夫しなければならぬ。今第八圖に依つて此の計光器の造り方の理窟丈けを述べて見よう。此の圖に1...2...3...4と記してあるやうに、中央に軸を貫いて廻轉すれば、一番目には左の光に照らされた面が見え、二番目には右の光に照らされた面が見え、三番目には左、

四番目には右と云ふ風に、代るく右と左の面が見えて来るやうな立體の形を造る。扱て此の計光器の右側に、一定の標準距離に標準燭光例へ

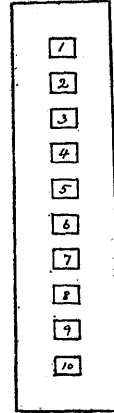


ば一燭の電球を置き左側にこれから新に光力(明度)を計らうとする電球を置き餘り速くなく此の器械を廻轉する。勿論右と左の明度が違ふから、初めは第七圖の第一圓板のやうに、ちらくが起る。そこで左側の電球を追々に遠けると次第く光が弱くなるから、左右の明度が接近して來て此のちらくは追々に減つて來る。全くちらくの止んだ時は兩方の明度が平均した時である。そこで強い電球の方の距離を計算し、これから其明度を算出するのである。ちらく(フリッカー)を應用した計光器(フォトメーター)であるから、之をフリッカー・フォトメーターと稱する。

今は電球の燭光を計る器械に就て述べたのであるが、色紙の明度を極めて精密に計るにも、やはり此のちらく應用計光器を利用する。即ち前記の器械の右側の面に赤なら赤の色紙を貼り左側の面に白紙を貼る。そして全く同じ燭光の電球で同じ距離から各々此の赤と白とを照らしつゝ其器械を廻轉すれば、赤は暗く白は明るいから、ちらくが起る。そこで白を照らす燭火を追々に遠けて白に當る光を弱くする。かくして一定度まで達すれば兩方の明度が平均して、ちらくが止

む。そこで白を照らす燭火の距離を計つて、これから赤の明度を割り出して来る。右の如く工業に應用した精密な科學的方法を以てせずとも、講義などに用ゐる標本としてはもつと大ざつばなもので色紙の明度を比較して示す事が出来る。

第九圖

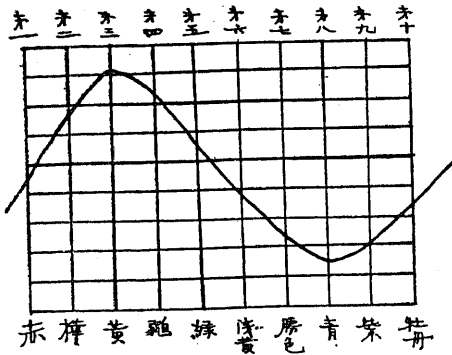


赤

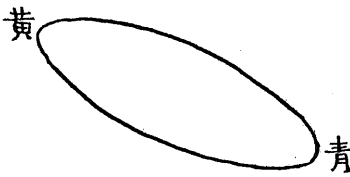
第九圖は赤なら赤と云ふ地色の上に、第二圖に示したやうな白からいろゝの階段の鼠を通じて黒まで變化する白・鼠・黒の小さい紙を1 2 3 4 5 6 7 8 9 10と十段に分けて貼り付けたものである。此の第九圖は赤の地色の紙(第一)であるが。次に樺(第二)、黄(第三)、鶉(第四)、緑(第

五)、淺黄(第六)、勝色(第七)、青(第八)、紫(第九)、牡丹色(第十)の地色の紙の上にも、これと同じやうに1……10と十枚の小さい白・鼠・黒の紙を貼り、此の全體の十色の地色の紙を左から右へ並べる。扱て第一の赤の地色の紙を見て、何番目の

第十圖



第十圖



又は何番目と何番目の間の鼠の紙が地色の赤と其明度が等しいかを判断させる。次に第二・第三・第四と順次に樺・黄・鶉……の各色の地色の紙を見て各々何番目の鼠の紙がそれ〴〵地色と明度が等しいかを判断させる。かくして決定したのから作つた十色の明度の曲線は第十圖に示した通りになる。そして此の曲線の端の赤を繋ぎ合せる。

と第十一圖になる。即ち黄は最も明るい色であるから上に位し、青は最も暗い色であるから下に位する。赤と緑とは其明度が略々相等しい。

黄は色調の中で最も明るい色であるから、之を暗く變化させると非常に多量な

濃淡明暗の度合を生ぜしめることが出来る。又青は色調の中で最も暗い色であるから、之を明るく變化させると、やはり非常に多量な濃淡明暗の程度を興へる事が出来る。他の色は決して黄や青ほどの多くの變化を出す事は出来ない。勿論白鼠・黒の明暗濃淡の度合は黄や青などの場合よりも大であるから、日本の「墨繪」や西洋の「黒白畫」や「ぼかし繪」のやうに白・鼠・黒で描く繪は、明度の階段の豊富な點に於て唯一のものである。之に強ぐものは黄色の明度を變化した「セピア繪」と青の明度を變化した「青寫眞」でなければならぬ。寫眞版の印刷にしても以上の理由によつて黒と茶と青とが最も適する。

吾々が日常接して居る周圍の事物に此の明度の關係がどの様に現はれて居るか。甲乙二物を並べて見て其間に如何なる明度の差があるか、若し之を繪畫で描き現はすとしたならば、繪の具の有する明度の差はどの位まで實物の明度の差を再現する事が出来るだらうか。若し實物通りの差を再現し得ないとすれば其繪としての明度の價値は如何、と云ふやうな問題が明度の問題に伴つて起つて来る。キルシマンと云ふ心理學者はボーラリゼーション・フォトメーターと云ふ器械を用ゐて次に掲げやうな二物體の明度を比較し、之を公式に當てはめて計算した結果を示して居る。今明度の差の少ないものから多いものの順に並べて見ると

|   | 明度を比較すべき二物體               |           | 明度の比例  |
|---|---------------------------|-----------|--------|
|   | 暗い物體                      | 明るい物體     |        |
| 1 | 實驗室の白い絨掛                  | 灰色の壁      | 1 : 24 |
| 2 | 雨の日の灰色の壁                  | 雨の日の空     | 1 : 24 |
| 3 | 燈の光の充ちた室の灰色の壁             | 明るい室      | 1 : 50 |
| 4 | 日光をあてた黒い紙                 | 日光を當てた白い紙 | 1 : 52 |
| 5 | 一尺の距離に瓦斯燈を置いて照らし且つ日光を受けた紙 | 瓦斯燈の炎     | 1 : 85 |

|    |                                      |           |   |        |
|----|--------------------------------------|-----------|---|--------|
| 6  | 畫の光の充ちた室の灰色の壁<br>雲のかいつつた晩の空の非常に明るい白雲 | 白雲<br>新月  | 1 | : 145  |
| 7  | 實驗室の白い窓掛                             | 晴朗な空      | 1 | : 349  |
| 8  | 實驗室の白い窓掛                             | 雨の曇天の空    | 1 | : 410  |
| 9  | 日陰に置いた黒い紙                            | 日光をあてた白い紙 | 1 | : 420  |
| 10 | 實驗室の白い窓掛                             | 白雲        | 1 | : 600  |
| 11 | 月の周囲の明るい空                            | 満月        | 1 | : 670  |
| 12 | 一尺の距離に瓦斯燈を置いて照らし且つ曇天の光を受けた白紙         | 瓦斯の炎      | 1 | : 1240 |
| 13 | 深い日陰に置いた黒紙                           | 日光をあてた白紙  | 1 | : 1600 |
| 14 | 非常に明るい夜の空                            | 中天の月      | 1 | : 3700 |
| 15 |                                      |           | 1 | : 4800 |

右の表に示したやうに、吾々の日常經驗してゐる明度上の差はかなりに著しいものである。然るに繪の具で明度を現はすと云ふ事になれば、最も明るい白と最も暗い黒との比は、辛じて1:66に過ぎない。これ以上の明度の差を吾々は事實に於て描き出す事は出来ぬ。然るに吾々は繪畫を見て實際と比較して左程に明度上の表現に不充分であると思つて居ないのは何故であるか。此の解答は後に述べる事實を俟たなければならぬから、一と先づこれで明度の問題を終つて、更に次の問題に移る。

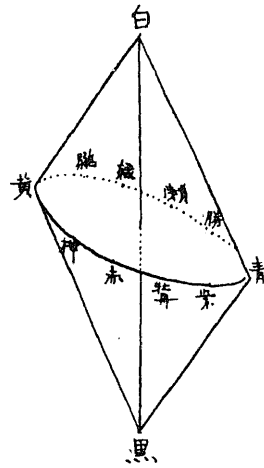
## 十二 光感覺及び色彩感覺の有ゆる變化を同時に示す系統

今まで別々に述べた四箇條の事柄——第一に直線(第一圖)を以て示した光感覺即ち白・鼠・黒の變化と、第二に圓(第



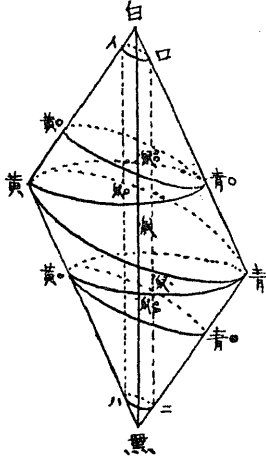
五圖)を以て示した色調の變化と、第三に三角形(第六圖)を以て示した色の飽和の變化と、第四に斜圓(第十一圖)を以て示した色の明度の變化——を一つの組織に纏めて見たらどうなるか。第十二圖は此の四つの變化を綜合して圖式にして示したものである。第一に白・鼠・黒の變化は中央の垂直の軸に依つて表はされる。第二に色調の變化は橢圓の圓周に記した各色の位置と軸とを含んだ三角形の面毎に表はされる、即ち此の面が變る毎に色調が變る。第三に飽和の變化は此の三角形の面に於ける一點が中央の軸より

第二十圖



の距離に應じて示される、其點が軸に近づけば近づくほど色は不飽和になり、遠かれば遠かるほど飽和して來る。そして橢圓の圓周に達すれば最大の飽和を示す。第十三圖に於て黄鼠青の面と並行した面黄鼠青

第三十圖



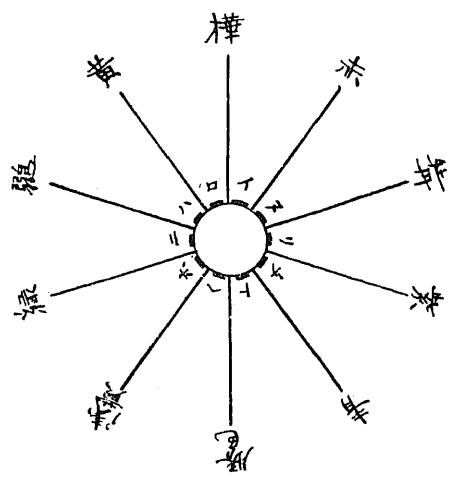
の方に作れば此の面上の諸色は皆同じ割合に白つほく不飽和に成つて來るし、黄鼠青の面と並行した面黄鼠青を下方に作れば、此の面上の諸色は皆同じ割合に黒つほく不飽和になる。又飽和の覺圍(第六圖の點線参照)は軸の周圍に作つた圓筒イロハニに依つて表はされる。そして此の圓筒の示すやうに、白く不飽和化する場合には青(及び綠)は黄(及び赤)より早く飽和を失ひ、黒く不飽和化する場合には青(及び綠)は黄(及び赤)より遅く飽和を失ふ(後に説くブルキンエ氏現象参照)。第四に明度の變化は中央の軸に直

角な面を作つて見て、此の面が上行するか下行するかに依つて示される。第十三圖に於て軸に直角な面黄鼠青を上方の方に作れば此の面上にある諸色の明度は、孰れも黄の明度と全く相等的い。故に青は黄と其明度を等しくする爲めには、淡青(白く不飽和化した青)と成らなければならぬ。次に軸に直角な面青

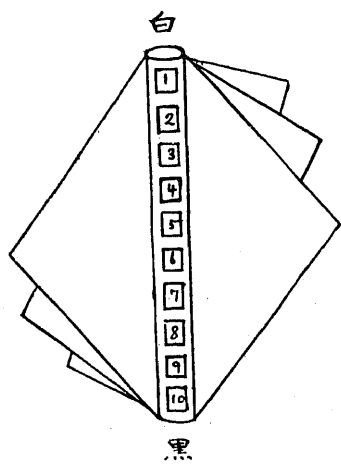
鼠黄を下の方に作れば此の面上にある諸色の明度は、孰れも青の明度と全く相等しい。故に黄は青と其明度を等しくする爲めには、濃黄（黒く不飽和化した黄）とならなければならぬ。第十三圖に於て色の名に。を付けたのは其色が淡くなる事を意味し、●を付けたのは濃くなる事を意味する。

第十二圖第十三圖は少し歪んだ圓錐形を上下から二つ合せた形に成つて居るから、之を色彩の兩圓錐形系統圖と稱する兎も角も光感覺と色彩感覺の右ゆる變化を示す系統的圖式としてかなり巧みに出来て居ると云つて宜しい。併し元來が抽象的な圖式であるから、教授用の標本として用ゐる事は出来ぬ。そこで此の系統圖を具體化して實際の立體的な形を造つて標本用としたものは第十四圖である。

(甲) 圖 四 十 第



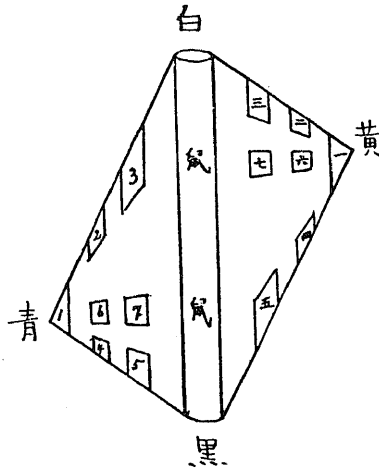
(乙) 圖 四 十 第



第十四圖の(甲)は其横斷面圖で(乙)は其見取り圖である。其造り方は(甲)に示したやうに圓筒の周圍に第六圖の

やうな飽和の三角形と十枚貼り付ける。(乙)は其貼り付けた形を立て、見たものである。此の十枚の三角形は各色の明度に依つて各々其形が違つて居る。其違ひ方は、圓筒に貼り付ける邊を底邊とすれば頂角の位置が第十圖に示した曲線に應じてそれら違ふのである。今其中で明度の差の最大な二色なる黄と青の飽和の三角形を、圓筒の左右に貼り付けた形を

第十四圖 (丙)



九圖に示したさうな白・鼠・黒の紙を十枚づゝ貼り付ける。(第十四圖乙参照)

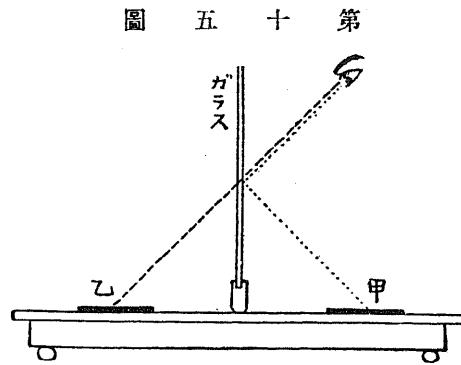
此の標本を用ゐれば、第十二圖第十三圖に就て述べたやうに光感覺及び色彩感覺の系統を説明する事が出来る。

## 十二 混色法

以上を以て色彩心理の記述の中で最も厄介な光感覺及び色彩感覺の系統論の大體を説き了つた。次に述べなければならぬのは混色の現象である。

示して見よう。第十四圖の(丙)は右側の三角形は黄色、左側の三角形は青色である。今黄色の飽和の三角形に就いて述べるならば、此の三角形の裏と表とに次のやうに色紙を貼る。頂角には飽和した黄(一)を黄白の邊には淡い黄(二)と非常に淡い黄(三)を、黄黒の邊には濃い黄(四)と非常に濃い黄(五)を、黄鼠の線に當る所には角頂に貼つた黄と同じ明度の黄鼠(六)と、更に鼠の勝つた黄鼠(七)を貼り付ける。此の一二三四五六七のやうに、圓筒の左側に1234567と色紙を貼れば青色の三角形が出来上る。次に十枚の三角形を放射形に貼り付けた圓筒の上に(第十四圖の甲ではイロハニホトチリヌ)第

混色の方法には繪の其の混色法と光の混色法と二つの方法がある。第一に繪の具の混色法とは(1)色硝子やセルロイドを重ね合せたり、(2)繪の具を混ぜ合せたりする方の混色の仕方である。第二に光の混色法と云ふのは、(1)分光色の色を混ぜたり(色硝子の幻燈を二つ以上用ゐるで色の光を混ぜるのも之と同じ方法である)、(2)色紙の圓板を組合せて速く廻轉



して混ぜたり、(3)色の點をボツ／＼と密集して打つた畫面(又は第十七圖のやうに二種の色紙を市松模様しやうそうに小さく貼り交ぜたもの)を遠くで見えて眼の中で混ぜたり、(4)第十五圖に示すやうに硝子で反射した、甲の色と硝子を通して來た乙の色とを混ぜたりする。

畫家や染色家の方の問題になるのは第一の繪の具の混色法で、物理學・生理學・心理學の方の實驗に用ゐられるのは第二の光の混色法である。此の章より以下四章に亙つて述べるのは此の光の混色法に就いてである。

茲に注意しなければならないのは、分光色の混色法と廻轉圓板の混色法とは、其混ぜて出て來た色の明度に非常な差があると云ふ事である。今2丈の明度の甲と云ふ色と、8丈の明度の乙と云ふ色を混ぜるとすると、分光色の混ぜ方では其結果の色は明度が互に相加はつて、 $2+8=10$ の明度を有する、然るに廻轉圓板の混色法では其結果の色は明度が相平均相殺して、 $\frac{2+8}{2}=5$ の明度を有するに過ぎない。故に次の餘色の章で説くやうに、赤と淺黄を混ぜる時に、分光色では其結果の色は明るい白となるけれども、廻轉圓板では白とならずに鼠となるに過ぎない。

## 十四 餘色・補色又は反對色

第五圖に依つて廻轉圓板の方法を以て混色の實驗をする（分光色の混色は第十六圖に依つて述べられる）。第五圖に於て差向ひに成つて居る二色、例へば赤と淺黃とを適宜な分量に混ぜると、其結果として鼠が出来る。若しこれが分光色の混色法であつたなら明るい白となる。斯の如く兩々相混じて無色（鼠又は白）となる色を互に餘色・補色又は反對色と名ける。即ち赤は淺黃の餘色であり、淺黃は赤の餘色である。同様に樺と勝色、黃と青、鶯と紫、綠と牡丹色は各々餘色である。

何故に餘色・補色・反對色と云ふ風に名が澤山あるか。補色と云ふのは赤と淺黃が相補つて鼠（又は白）と云ふ色を作り出すと云ふ意味で、 $\text{赤} + \text{淺黃} \parallel \text{鼠}$ （正）と云ふ式を現はしたものである。餘色と云ふのは右の式から  $\text{鼠}$ （正） $\parallel \text{赤} \parallel \text{淺黃}$ （正） $\parallel \text{鼠}$  と云ふ二つの式を導いて來て、引いて餘つた色と云ふ關係を云ひ現はしたものである。然るに反對色と云ふ事は、赤と淺黃とが互に消し合つて色が無くなると云ふ事を意味するので、之を式にすれば  $\text{赤} - \text{淺黃} \parallel 0$  となる。即ち赤と淺黃とは互に敵同志の色で、兩方を適宜に混ぜると云ふ事は、兩方の力が全く互角である爲めで、互に合討ちをして雙方共に死んで仕舞ふと云ふ意味を表はしたのである。

今は反對色を適宜な分量に混ぜたのであつたが、次に適宜でない分量例へば赤と淺黃の場合で互に消し合ふ分量よりも赤を少し多くしたならどうか、赤を少し多くすれば非常に不飽和な鼠色化した赤が出て來る。此の場合には赤が淺黃より少し力が強いから赤が淺黃を殺して仕舞ふけれども、淺黃とておめくくと殺されはしない。赤に重傷を負せて己も斃れると云ふ事になる。それ故赤が非常に不飽和になるのである。此の場合に赤の分量を増加するに連れて赤が追々に飽和して來る。若し最大量の赤と最小量の淺黃とを加へると、殆ど赤は飽和を減じない。即ち敵が弱いからである。今は赤と淺黃の例を取つたが、他の一對の反對色に就ても全く同じ事である。

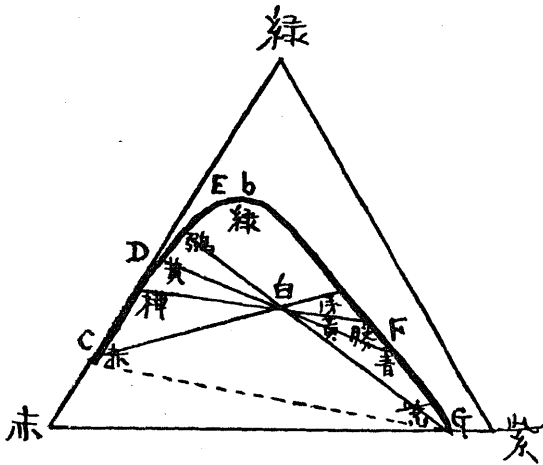
## 十五 中間色及び三基色

第五圖に於て差向ひのものは互に其色を消し合ふ事は前章に述べた。次に差向ひでない色同志を混ぜたらどうなるか。此の場合には第五圖に於て其二つの色の中間にある各々の色が出て来る。そこで差向ひでない二色の混合に依つて生ずる色を中間色と稱する。今例を赤と緑に取つて見よう。赤と緑とを混ぜると其混合の分量に依つて、赤七十五緑二十五の割合では樺が出来、赤五十緑五十の割合では黄が出来、赤二十五緑七十五の割合では鶉が出来る。

然るに第五圖を見れば、黄は赤と緑との中間にあると共に、樺と鶉との中間にもある。そこで赤と緑とで出した黄と樺と鶉とで出した黄との間にどんな差があるだらうかと云ふ事が問題になる。實驗の結果は、樺と鶉とで出来た黄は飽和して居るけれども、赤と緑とで出来た黄は不飽和である。即ち近い色同志で出した中間色は遠い色同志で出したものよりも飽和して居る。

赤と緑の例は右に述べた通りであるが、これは他の色に就ても同じ事である、樺と牡丹を混ぜると赤が出来、赤と青とで牡丹も紫も出来る、紫と勝色とで青が出来るし、青と緑とで勝色も淺黄も出来る。淺黄と鶉とで緑が出来、緑と黄で鶉が出来、黄と赤とで樺が出来る。

茲に一つの問題が起る。第五圖に示したやうな色を出すのに何か少數の土臺になる色があつて、それを混ぜると悉くの色が出来ると云ふやうに行かないかどうか。分光色スペクトラムの實驗では赤と緑と紫の三色があれば、分光色中の總ての色を出す事が出来る、故に此の三色を基色と稱する。紫の代りに青を用いても差支はない。第十六圖の太い曲線は一對づゝの分光色スペクトラムを用ゐて反對色の實驗を試みて作り出したものであるが、此の曲線は自然に三角形を形作り、三基色としての赤緑紫の位置を示して居る。尙第十六圖は廻轉圓板の實驗の第五圖に於ける如くに反對色及び中間色の記述に用ゐられる。又分光色スペクトラムの



混色の三基色は第一圖に示したやうな繪の具の混色上の三原色と對立される。即ち、赤・黄・青の三原色に對して赤・綠・紫(又は青)の三基色と云ふ名稱を注意しなければならぬ。

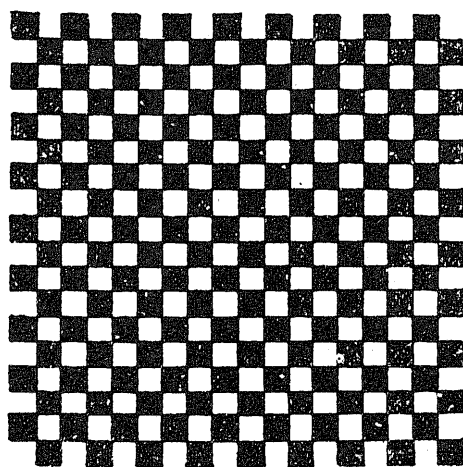
廻轉圓板の實驗に於ては色紙が飽和して居ない爲めに、此の分光色スペクトルの三基色を其まゝ應用する事が出来ぬ。

## 十六 餘色關係に歸せしむべき多色混合

一對の餘色は適宜な分量に混ずれば鼠(白)を生ずるとすれば其混合の比例を保つたまま、で二對なり三對なり四對なり五對なりの餘色を悉く圓板に組み合せて廻轉しても亦鼠(白)を生ずる事は當然である。それから若し此の比例が正しく保たれて居るならば、三色を合せても五色を混ぜてもやはり鼠(白)になるのが淺黄になるから、つまり此の三色の混合は赤と淺黄即ち餘色を混ぜたと同じ結果になる。同じやうに今度は綠を主にして考へて見ると、赤と青とを混ぜると牡丹色になるから此の三色混合は綠と牡丹色即ち餘色を混ぜたものと等しい。次に青を本位にして見ると、赤と綠との混合は黄を生ずるから、此の三色混合は實は青と黄即ち餘色の混合と同じ道理である。

故に混合した結果が鼠(白)に見える爲めには、一對の餘色を合せようが、三色を合せようが、二對の餘色を用るよう

第十 七 圖



が五色を合せようが、三對の餘色を用るようが、七色を混ぜようが、四對五對の餘色を合せようがそれは全く色を取扱ふ人の自由である。同じ理由で、混合した結果が或色例へば青なら青に見える爲には、此青に幾對かの餘色を加へて置いても好い譯である。佛蘭西の印象派の畫家モネーが、畫布に美しい色の點を澤山打つて油繪を描いたと云ふのは、物理學者が三稜鏡で太陽の無色の光を分解して澤山の美しい分光色を出したのと等しい意味を示すもので、彼は廻轉圓板の代りに

色の小點を打つて（即ち光の混色法の $\delta$ を用るて）此問題を解決した。此方法の最も簡単な實驗は第十七圖に示すやうに二種の色を小さい市松模様塗りに塗り又は貼り分けて、之を遠くへ離して眺めるのである。若し此二色が餘色であれば此圖は鼠色に見えるし、餘色でなければ中間色が現はれる。尙此現象を畫家の例に就て述べて見る。今畫家が向うの壁を油繪に描かうとする。其壁は遠くから眺めた所では淡鼠色に見える。若し太陽の無色の光が美しい分光色から成るとすれば、此壁の淡鼠色も多くの美しい色が綜合して出来たものと考へて差支はない。物理學者が太陽の光を分解したやうに、畫家は壁の淡鼠色を分解して差支ない。併も畫家は餘色の關係を知て居さへすれば、自分の好きな配合の色に之を分解して、小さい色の點々して畫

布の上に描く事が出来る。乃ち此畫面を遠くへ離して見れば、美しい色と色とが互に消し合つて、淡鼠色が現はれる。

モネーの始めた此技巧は、シュラー、シスレー、シンヤック、ライセルベルヘ等の畫家に盛に用ゐられた、彼等は色の點々を打つて明るいきら／＼するやうな繪を多く描いた。それ故點彩派と稱せられた。彼等は印象派の中での新派であるから、又新印象派とも呼ばれた。



# の 一 本 日 年 幼 本 日

□ 倉橋惣三先生監修

本誌は、三歳から拾歳までの子供の爲め美しい繪と、面白い噺とを、教育的に組み合せた他に比類なき繪雜誌です。殊に毎號教育的な手技附録を添へます。

本誌は 玩具とお噺しとの興味及び教育的價値を兼ねあはせたるもの、子供には何よりも喜ばれ、何よりもよき友達となる。

## 定 價

壹冊拾二錢 □半年 郵稅共七拾五錢  
 郵稅壹 錢 □壹年 同壹圓四拾四錢

御大典記念畫報 婦人畫報  
 皇族畫報 少女畫報  
 日本幼年

發行所

東京橋鍛冶橋外  
 振替東京四九〇〇

東京社

羽仁とも子主幹

# 子供之友

本誌は十分教育的に編輯された子供雑誌で御座います。記事も挿畫も子供の喜ぶものばかりです。楽しんで讀む間に、頭腦をよくし感情を高尙にし、善良なる習慣を愛するやうになります。『子供之友』には、一つの非教育的なる挿畫も、一行の不注意なる文章もありません。『子供之友』は、家庭教育の最も有力なる補助機關であります。幼稚園及び小學校時代の御子様方のために、熱心によき讀物を求めて居らるる御家庭におすゝめ致します。

定額 十一分半 十錢六分 郵税 六錢  
 定價 十一分半 十錢六分 郵税 六錢  
 東京 雜司 谷  
 振替 一六〇〇番  
 東 京 雜 司 谷  
 振 替 一 六 〇 〇 番  
 社 友 之 人 婦

明治三十四年一月廿八日第三種郵便物認可(毎月一回一日發行)  
 大正六年二月一日納本濟  
 大正六年二月一日發行  
 婦人と子ども 第十七卷第二號

印刷所

凸版印刷株式會社本所分工場